

第二学期終業式式辞

令和7年12月19日

※二学期を振り返って・・・輝笑転結 ～笑顔が絶えない青春を～

二学期お疲れ様でした。体育大会、小松高祭、ウォークラリー毎年の行事だけれども、現小松高校だけで行うのは、最後の行事となりました。同じ行事でも、来年度からは新小松高校との合同行事となります。来年度からは二校が同じところにある、そして新校への橋渡しをするという新しい気持ちで取り組んでください。生徒会スローガン「輝笑転結 ～笑顔が絶えない青春を～」のもと、多くのことを笑顔で行うことができたと思っています。

先ほどはたくさんの表彰がありました。吹奏楽部がマーチングコンテストに愛媛県大会では金賞、3年連続で四国大会出場、四国大会では銀賞、男子バレーボールの快進撃をはじめ各分野での活躍が本当に嬉しい限りです。経済研究部も高知県での商い甲子園に出場して、商品が完売するなどよい経験が積めたと思います。

二学期はインフルエンザがどこよりも早く流行り、逆に期末考査への影響は最小限にとどまりましたが、やはり感染症対策の大切さを思い知らされました。今から受験を控えている3年生も多いのでしっかり健康管理に留意してください。

※ノーベル賞のニュースから・・・引き算の思考

先週、ノーベル賞の話題が数多く出ていました。日本人は今回二名坂口志文氏と北川進氏両名に授与されました。日本人の二人受賞は10年ぶりです。坂口さんは生理学・医学賞、北川さんは化学賞の受賞でした。愛媛県の受賞者は3人もいて、2021年には、物理学賞で真鍋淑郎氏、文学賞で大江健三郎氏(1994)、物理学賞で中村修二氏(2014)がいます。真鍋氏は、四国中央市の新宮町もともと新宮村の前身新立村(しんりつむら)の出身です。大きな賞をもらうとその方の言った言葉が教訓になっていきます。真鍋氏は「好奇心を持つことが大切である」と答えたことがいろいろなところで話題となりました。今回、「引き算の思考」ということが話題になっています。「引き算の思考」とは、余分なものをどんどん足していくのではなく、本当に必要なものだけを残していく考え方です。北川氏は研究の過程で、複雑な条件や要素をむやみに足していくのではなく、「これは本当に必要なのか」「これは取り除けないか」と、一つ一つ削ぎ落としていく姿勢を大切にしてきたと言います。そして、その「余分をそぎ落とす姿勢」こそが、新しい発見や独創的な成果につながったと語っています。

私たちは日々の生活でも、つい「もっとやらなければ」「もっと詰め込まなければ」と思いがちです。しかし、ときには立ち止まり、自分にとって本当に必要なことは何か、逆に手放してよいものは何かを見つめ直すことが、成長につながる場合があります。勉強でも部活動でも、人間関係でも、優先順位をつけ、本当に大切なことへ力を注ぐことで、道は開けていきます。

二学期は行事が多く、皆さん一人一人がよく頑張ってきました。だからこそ、三学期、自分がやってきたことでどのことを引き立たせたいか、より成長させたいかを考えてください。新しい年に向かうこの時期に、一年の計は元旦にありといわれるこの時期に特に重要視したい目標を意識してみてください。余分な不安や、やらなくてはならない気がして抱え込んでいたことを一つ引いてみる。そのかわりに、あなたが本当に大切にしたい目標や挑戦を、一つ強く残してみる。

その選択が、皆さんの来年をより豊かで成長に満ちたものへと導いてくれるはずです。

新年が、皆さんにとって、自分の可能性を伸ばす一年となることを願っています。三学期元気な顔で会いましょう。